

# URAシンポは本当に必要か？ 本音で議論する場のデザイン

RA-P58

山本 祐輔  
京都大学 学術研究支援室

本田 一貴  
熊本大学 マーケティング推進部 研究推進ユニット

山田 朗

柳生 勇

愛媛大学 先端研究・学術推進機構 教育研究高度化支援室

名古屋工業大学 産学官連携センター

## 提案

### URA「自称」若手サークル

- 目的** URAの相互研鑽
- 対象** 「自称」若手. 向上意識があれば誰でも「若手」
- 期間** 第1期は平成29年度まで  
存在価値が無くなったら解消

このサークルに賛同される方は名刺入れに入れて下さい

本日(11/18)の懇親会後に2次会で集まります. 参加される方は名刺に🌸マークなど書くと同時に, 下の数字を一つ塗りつぶして下さい. 場所確保の関係上, 先着20人です. すいません.

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑳

懇親会直前頃に, このポスターに集合場所・時間を貼っておきます

## 資質

自己の所属組織に捕われず, 日本全体の大学の向上に貢献したいと考える人



集まり自体に明確な目的がなくても, 出張申請を自己責任で出来る人



本音の話が自己と所属機関の向上になると思う人

本音の話を他者に提供できる人



他機関との交流こそがURAにとって大事と思う人

他機関との交流こそが相互向上につながると思う人

ただし, 以下のような方は得るモノが何も無いサークルかも知れません

- ・話を聞くだけで何も提供してくれない人
- ・現状に甘んじている人, 向上心のない人
- ・本サークルへの参加に際し, 上司に相談してみようと思った人

## 背景

URAの集まりでは形式的な組織紹介・取組紹介などが多く, うまく活用できないと感じていませんか? 本音の部分での話ができたら, と感じていませんか? そこで, 以下のような場を作りたいと思います

- ・実務で培った互いの知識・技能を吸収できる
- ・互いの信頼関係の構築もできる
- ・アウトプットも互いの大学のためになる
- ・自身のモチベーションも維持できる

## 趣旨

機関の枠や縄張り意識を越えた「個人」としての自由な意見交換を前提にした, 実務に役立つ情報・経験の共有を行う場

- ・本音ベースの話し合いが生命線です. 建て前ベースでは長期的には自己発展の芽を摘むだけだと思っています.
- ・(無理に)結論を出すことはしません. 各個人の考え方の多様性を共有することがURAの貴重な財産だと思っています.

## 形式

互いに束縛するような形式にはしません

- ・オフライン: 各種シンポジウムや研究会時の空き時間に集合参加者の自由呼掛けで集合
- ・オンライン: メーリングアドレス  
web掲示板・ブレインストーミング

メールでの意見交換や熊本大に集まった時にこんな話をしています

### このポスター発表について

「誰でも参加できる現行のシンポジウムのような形態で, 真面目な議論ができるのか」  
「大きな研究会やシンポでは建前のみの話が多くて少し面白みに欠けますね」  
「内々の情報の交換は, 信頼関係ができていないと難しいのではないかと」  
「組織を作っても, 本当に有意義な話ができるのは, 一部の人がたりするようです。」  
「シンポジウムはシンポジウムで「成果を発表して実績を作る場」等の目的が必要でしょう」  
「賛同してくれる人だけ集まれば今回の取組は成功と言えるのではないのでしょうか?」  
「URAという文脈においては, 他大学に情報を流したりすると出し抜かれるということがあるからでしょうか?」  
「はっきり言って今の状況だと, その種の情報を隠しておくよりも出していただいた方がメリットの方が大きい気がするんですけどね」  
「分散型の緩いネットワーク(サークル型)と僕は理解しています. 既存のネットワークは残しつつ, 違うものを作りたい」

### URAについて

「淡々と業務をこなしていくような感じになる人たちも多い気がしています. 問題意識を常にもち, また, 日頃考えているかにかかっているような気がします」  
「「淡々と業務をこなしていく」というのは, ちょっと羨ましくも感じます. URAっていう訳の分かんない職種において, 淡々とこなしていける業務形態が確立出来ているのなら, という意味においては」  
「より良くしていきたいという気持ちを持ち続けることが大事でしょう」  
「URAの役割は縦横無尽に学内を動き回り思想改革を起こすこと」  
「事務方がURA的業務を取り込んだ時点で, 現状のURA制度はお役目御免なのです」  
「学外の情勢・情報を相互交換しながら学内フィードバックをするURAは必要になり続けるのかな」  
「言われているURAのスキルってのは”Research Management”で, 既存の事務職務でカバーできそう, むしろ, ”Research Development”の視点が必要なんじゃないですか?」  
「現状の大学に存在する職務を越えた, Higher Levelの思考と実践がURAと思う」

### 研究や運営について

「流行りの「集中と選択」はよほど注意して進めないと, 学術の根本を枯らしてしまうのではないかと危惧しています」  
「URAは, ちゃんと学術レベルが本質的に向上するような施策をしっかりと考えることは重要だと思います。」  
「共同研究チームを作ってCRESTに申請するので, 互いの大学のURAが協力して申請書を作るとか」  
「「国際共著=高品質論文」な短絡的な結論は研究の本質からずれている気がしています」  
「単に国際共著論文を求めるのではなく, より高い研究をするために, 結果的に, 国際共同研究を進めることになるというなら別ですが」  
「引用数が高くてもケツも拭けない紙も多いですからね」  
「学際研究は新しい(新しすぎる)研究テーマなので, 境界領域テーマはなかなか査読が通らない(or 出すところがない), なかなか引用されない, と引用数が伸びない要素が満載です」  
「研究者にはいろいろなタイプがあるので, それを把握した上で, 彼らをどうしたいのか, 彼らを活用してどう大学を良くしていきたいのかをもっと考えるべきですね」  
「短期的な成果を考えるといわゆるProfit & Loss型の考え方をしてしまうことが多く, 今の資源のポテンシャルや未来への投資を考慮したBalance sheet型の考え方ができていないと思います」  
「自分の大学が一時的に発展しても, 国内の大学(高等教育・学術研究)総体の機能・位置づけが弱ったら無意味でしょう」